

【小学校 国語】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値

【平均正答率（％）】

| 全国 | 仙台市 | 全国との差 |
|----|-----|-------|
| 66 | 65 | -1 |

【学習指導要領の内容の平均正答率（％）】

| 分類 | 区分 | 全国 | 仙台市 | 差 |
|--------------|---------------------|------|------|------|
| 知識及び技能 | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 69.0 | 68.7 | -0.3 |
| | (2) 情報の扱い方に関する事項 | - | - | - |
| | (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 77.9 | 80.3 | +2.4 |
| 思考力、判断力、表現力等 | A 話すこと・聞くこと | 66.2 | 64.8 | -1.4 |
| | B 書くこと | 48.5 | 47.9 | -0.6 |
| | C 読むこと | 66.6 | 66.3 | -0.3 |

【観点別・問題形式別 平均正答率（％）】

| 分類 | 区分 | 全国 | 仙台市 | 差 |
|-------|---------------|------|------|------|
| 評価の観点 | 知識・技能 | 70.5 | 70.7 | +0.2 |
| | 思考・判断・表現 | 62.0 | 61.3 | -0.7 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | - | - | - |
| 問題形式 | 選択式 | 71.8 | 71.6 | -0.2 |
| | 短答式 | 63.6 | 63.5 | -0.1 |
| | 記述式 | 51.3 | 50.6 | -0.7 |
| 無解答率 | | 5.7 | 6.6 | +0.9 |

（成果：○，課題：●，問題番号：【 】）

- ① 【2】三】表現の効果を考えることができるかどうかをみる問題の正答率は、60.0%と全国を0.8ポイント上回っている。
- ② 【3】四】漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができるかどうかをみる問題の正答率は80.3%で、全国を2.4ポイント上回っている。
- ① 【1】四】互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題の正答率は46.5%で、全国を1.2ポイント下回っている。
- ② 【2】二】人物像や物語の全体像を具体的に想像することができるかどうかをみる問題の正答率は67.0%と全国より1.3ポイント低くだけでなく、無解答率が17.8%と全国より5.6ポイント高い数値になっている。
- ③ 【3】二】文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうかをみる問題の正答率は、38.2%で全国を0.5ポイント上回っているものの、無解答率が18.5%と全国より4.0ポイント高い数値になっている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 話し合った後で考えをまとめる際には、様々な視点から検討したことを踏まえて自分の考えをまとめることが求められる。「意見を言った後に理由を言う」などの学習の経験のみで解答することがないよう、異なる意見を自分の考えに生かせるように、例えば「～という意見もあったが」、「～という考えもあるけれど」などの表現を用いられるようにすることが効果的である。
- ② 人物像を具体的に想像するためには、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方などを総合して判断することが必要である。また、「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むことが、物語の全体像を具体的に想像することにつながる。
- ③ 「共有」に関する指導事項の定着を図るためには、互いの文章に対する感想や意見を伝え合うことを通して、自分の文章のよいところを見付けることができるように指導することが重要である。指導に当たっては、文章を読み合う観点を提示し、その観点に沿って感想や意見を伝え合う経験を積み重ねていくこと及び伝え合ったことを基に、自分の文章のよいところを言葉で表したりすることが大切である。

【中学校 国語】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値

【平均正答率（％）】

| 全国 | 仙台市 | 全国との差 |
|----|-----|-------|
| 69 | 71 | +2 |

【学習指導要領の内容 平均正答率（％）】

| 分類 | 区分 | 全国 | 仙台市 | 差 |
|------------|--------------------|------|------|------|
| 知識及び技能 | (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 | 72.2 | 73.6 | +1.4 |
| | (2)情報の扱い方に関する事項 | 46.5 | 45.9 | -0.6 |
| | (3)我が国の言語文化に関する事項 | 70.2 | 72.4 | +2.2 |
| 思考力判断力表現力等 | A話すこと 聞くこと | 63.9 | 68.0 | +4.1 |
| | B書くこと | 46.5 | 45.9 | -0.6 |
| | C読むこと | 67.9 | 71.2 | +3.3 |

【観点別・問題形式別 平均正答率（％）】

| 分類 | 区分 | 全国 | 仙台市 | 差 |
|-------|---------------|------|------|------|
| 評価の観点 | 知識・技能 | 69.0 | 70.4 | +1.4 |
| | 思考・判断・表現 | 62.3 | 65.4 | +3.1 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | — | — | — |
| 問題形式 | 選択式 | 73.7 | 76.2 | +2.5 |
| | 短答式 | 70.3 | 71.8 | +1.5 |
| | 記述式 | 57.4 | 59.6 | +2.2 |
| 無解答率 | | 4.3 | 4.0 | -0.3 |

（成果：○，課題：●，問題番号【 】）

- ① 【1 一】聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することができるかどうかをみる問題の正答率は78.2%で、全国を3.5%上回っている。
- ② 【1 二】論理の展開などに注意して聞くことができるかどうかをみる問題の正答率は70.3%で、全国を5.2%上回っている。
- ③ 【1 三】自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができるかどうかをみる問題の正答率は55.6%であるが、全国を3.8%上回っている。
- ④ 【3 四】場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができるかどうかをみる問題の正答率は77.4%で、全国を3.6%上回っている。
- ① 【2 三】自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題の正答率は45.9%で、全国を0.6%下回っている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 自分の考えを話す際には、場の状況や聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら、聞き手に応じた語句を選択したり、呼びかけや問いかけをしたりするなどして、相手に分かりやすく伝わるように表現を工夫することが大切である。
- ② 話し手の考えを聞いて自分の考えをまとめる際には、情報同士の結び付きに注意しながら、話の要点を捉えたり、意見に対する根拠の適切さを判断したりして聞くことが大切である。
- ③ 自分の考えが分かりやすく伝わるように話すためには、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりするなどして、表現を工夫することが大切である。
- ④ 文学的な文章を読み味わう際には、個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけでなく、話の展開を捉えて、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行うことが大切である。
- ① 意見文を書く際には、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にすることが大切である。そのためには、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認することが必要である。その上で、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要である。

【小学校 算数】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値

【平均正答率（％）】

| 全国 | 仙台市 | 全国との差 |
|----|-----|-------|
| 63 | 62 | -1 |

【学習指導要領の領域 平均正答率（％）】

| 区分 | 全国 | 仙台市 | 差 |
|----------|------|------|------|
| A 数と計算 | 69.8 | 67.8 | -2.0 |
| B 図形 | 64.0 | 64.6 | +0.6 |
| C 測定 | — | — | — |
| C 変化と関係 | 51.3 | 50.7 | -0.6 |
| D データの活用 | 68.7 | 66.4 | -2.3 |

【観点別・問題形式別 平均正答率（％）】

| 分類 | 区分 | 全国 | 仙台市 | 差 |
|-------|---------------|------|------|------|
| 評価の観点 | 知識・技能 | 68.2 | 67.9 | -0.3 |
| | 思考・判断・表現 | 56.7 | 54.8 | -1.9 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | — | — | — |
| 問題形式 | 選択式 | 51.8 | 50.8 | -1.0 |
| | 短答式 | 76.5 | 77.0 | +0.5 |
| | 記述式 | 60.2 | 56.9 | -3.3 |
| 無解答率 | | 3.5 | 4.5 | +1.0 |

- ① 【1】(2) 二つの数の最小公倍数を求めることができるかどうかをみる問題の正答率は75.8%で、全国を3.6ポイント上回っている。
- ② 【4】(4) 示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できるかどうかをみる問題の正答率は59.2%で、全国を1.6ポイント上回っている。
- ① 【1】(3) 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率は68.9%で、全国を7.1ポイントと大きく下回っている。また、無解答率も9.5%と高い。
- ② 【2】(3) 示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうかをみる問題の正答率は19.8%と低く、全国平均を1.6ポイント下回っている。
- ③ 【3】(3) 目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率は63.1%と低く、全国平均を3.7ポイント下回っている。
- ④ 【3】(4) 加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できるかどうかをみる問題の正答率は、63.9%と、全国を3.8ポイント下回っている。また、無解答率も12.4%と高い。
- ⑤ 無解答率が全16問中11問で全国平均を上回り、全体で1.0ポイント上回っている。また、記述式の問題形式でも全国を3.3ポイント下回っており、特に求め方や理由を記述する問題で無解答率が高い。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 生活場面の問題を解決するためには、図を用いるなどして、数量関係を正確に捉えさせる必要がある。図と関連させて、式の意味を考えさせる場面を意図的に授業に取り入れていくことが重要である。
- ② 数量が変わっても割合は変わらないことを日常の具体的な場面を提示して確認することが重要である。飲み物の量が変わっても味は変わらないという生活体験など、量の違いで割合は変わらないことを具体的に想起させる活動を取り入れていくことが大切である。
- ③ 目的に応じて、複数のグラフから適切なグラフを選択し、データの特徴や傾向を捉えさせる活動を取り入れていく必要がある。その際、割合の大きさなど必要な情報を読み取ることができるようにすることが重要である。
- ④ 普段の授業から、日常の問題場面を通して、数量関係を図や式に表し、式の意味を考えさせたり説明したりする活動を多く取り入れるようにしていくことが大切である。
- ⑤ 普段の授業において、立式の理由や問題解決に向けた考え方をノートやChromebookに書かせるなど、図を基にして言葉や式で表現する経験をたくさん積み重ねていくことが重要である。また、学び合いを通してどのように表せば分かりやすく、ポイントを押さえた表現になるか協働的に学ばせていくことが大切である。

【中学校 数学】

※ 平均正答率は全て公立学校の値

分析結果

【平均正答率 (%)】

| 大都市 | 全国 | 仙台市 | 全国との差 |
|-----|----|-----|-------|
| 53 | 51 | 53 | +2 |

【学習指導要領の領域 平均正答率 (%)】

| 区分 | 全国 | 仙台市 | 差 |
|----------|------|------|------|
| A 数と式 | 57.4 | 57.0 | -0.4 |
| B 図形 | 43.6 | 48.6 | +5.0 |
| C 関数 | 43.6 | 46.3 | +2.7 |
| D データの活用 | 57.1 | 59.6 | +2.5 |

【観点別・問題形式別 平均正答率 (%)】

| 分類 | 区分 | 全国 | 仙台市 | 差 |
|-------|----------|------|------|------|
| 評価の観点 | 知識・技能 | 59.9 | 61.6 | +1.7 |
| | 思考・判断・表現 | 36.2 | 38.8 | +2.6 |
| 問題形式 | 選択式 | 52.6 | 56.7 | +4.1 |
| | 短答式 | 65.7 | 65.4 | -0.3 |
| | 記述式 | 36.2 | 38.8 | +2.6 |
| 無解答率 | | 10.8 | 10.8 | ±0.0 |

(成果 : ○, 課題 : ●, 問題番号 [])

- ① 【 3 】 1組の対辺が平行で、もう1組の対辺が等しい四角形が常に平行四辺形になるかどうかを考察し反例を示す問題の正答率は50.9%で、全国を6.0ポイント上回っている。
- ② 【 9 (1) 】 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解しているかどうかをみる問題の正答率は78.9%で、全国を5.7ポイント上回っている。
- ① 【 1 】 42を素数の積で表すことができるかどうかをみる問題の正答率は36.9%で全国を15.3ポイント下回っており、無解答率も16.8%で全国を5.3ポイント上回っている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 図形において特別な場合における規則や性質を考察する場面では、推測や命題が常に成り立つことを説明するだけでなく、常に成り立つとは限らないことも説明できるようにすることが大切である。また、命題が常に成り立つとは限らないことを示すためには反例の一つあげればよいこと、反例は「命題の仮定を満たしているが、結論を満たしていない例」であることを理解できるように指導することも大切である。
- ② 証明を読み、結論を示すための根拠として、仮定や図形の性質が適切に用いられているかを確認する場面を設定し、証明の根拠として用いるべき三角形の合同条件を判断できるように指導することが大切である。
- ① 整数の性質について理解を深める場面において、整数を様々な視点から捉えることができるようにするために、自然数を素数の積で表すことが大切である。
 本間を使って授業を行う際には、自然数42をその約数の積に表す過程で、表現された約数が素数の積に分解できるかを調べたり、素数の意味を確認したりする場面を設定することが考えられる。例えば、42をその約数の積で表すと、 $2 \times 3 \times 7$ 、 6×7 、 2×21 、 3×14 がある。この中で、42を素数の積で表したものは、 $2 \times 3 \times 7$ である。この活動によって、自然数を約数の積に表すと多様に表現できるが、素数の積で表す場合にはただ一通りであることを、実感を伴って理解することができる。
 また、自然数を素因数分解することを通して、整数に対する見方をさらに広げ、整数の性質の理解を深めることができようすることが大切である。素因数分解は、小学校で学んだ約数や倍数の性質についての理解をさらに深め、さらに、「正の数の平方根」の学習において、例えば \sqrt{a} を $b\sqrt{c}$ に変形することや数の平方根を含む式の計算を工夫して行う上で大切であることを踏まえ、丁寧に指導することが重要である。

【小学校 理科】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値

【平均正答率 (%)】

| 全国 | 仙台市 | 全国との差 |
|----|-----|-------|
| 63 | 63 | ±0 |

【学習指導要領の領域の平均正答率 (%)】

| 区分 | 全国 | 仙台市 | 差 |
|-----------------|------|------|------|
| A「エネルギー」を柱とする領域 | 51.6 | 51.2 | -0.4 |
| A「粒子」を柱とする領域 | 60.4 | 61.3 | +0.9 |
| B「生命」を柱とする領域 | 75.0 | 75.4 | +0.4 |
| B「地球」を柱とする領域 | 64.6 | 64.4 | -0.2 |

【観点別・問題形式別 平均正答率 (%)】

| 分類 | 区分 | 全国 | 仙台市 | 差 |
|-------|---------------|------|------|------|
| 評価の観点 | 知識・技能 | 62.5 | 63.7 | +1.2 |
| | 思考・判断・表現 | 63.7 | 63.4 | -0.3 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | — | — | — |
| 問題形式 | 選択式 | 66.8 | 66.9 | +0.1 |
| | 短答式 | 66.2 | 67.5 | +1.3 |
| | 記述式 | 47.3 | 46.9 | -0.4 |
| 無解答率 | | 3.6 | 4.7 | +1.1 |

(成果：○, 課題：●, 問題番号：【 】)

- ① 【2】(1) 【2】メスシリンダーという器具を理解しているかどうかをみる問題の正答率は71.4%で、全国を3.6ポイント上回っている。
- ② 【4】(4) 【4】水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解しているかどうかをみる問題の正答率は64.1%で、全国を2.1ポイント上回っている。
- ① 【2】(4) 【2】自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる問題の正答率は37.8%で、全国平均を1.5ポイント下回っている。また、無解答率は、12.4%で、全国より3.7ポイント高い。
- ② 【3】(3) 【3】自分で発想した実験の方法と追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題の正答率は67.0%で、全国平均を1.9ポイント下回っている。
- ③ 【4】(3) 【4】観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題の正答率は42.8%で、全国平均を2.7ポイント下回っている。
- ④ 無解答率が全17問中11問で全国平均より高く、問題全体では1.1ポイント高くなっている。特に自分の考えをもち、その内容を記述する問題で無解答率が高い。また、問題形式でも、記述式が全国を0.4ポイント下回っており、無解答率との関連がうかがえる。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 紅茶に水や砂糖水を凍らせた物を入れたときの現象を比較して、凍った水溶液について、試してみたいことを見いだす記述に課題が見られた。指導に当たっては、自然の事物・現象に働きかけて得た事実について、自分や他者の気づきを捉え、共通点や差異点を基に個人が問題を見だし、それを基に学級全体で問題を設定することが考えられる。
- ② 鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、実験方法を改善し、継続して同じ条件で実験を行う手立ての作成に困難が見られた。理科では、児童が実験方法を立案することや、実験を振り返って見直したり、検討したりすることが重要であるので、指導に当たっては、実験の途中で同じ条件で実験が進められているか検証する場面を設定したり、必要に応じて改善したりする学習活動が考えられる。
- ③ 高学年では、実験の結果からいえることについて、分析し、解釈して、より妥当な考えをつくり出すことが重要である。指導に当たっては、結果などから結論を導き出すために必要な数量、変化の大きさなどの特徴を見つけ、自分の考えをもち、それらを話し合う場面を設定することが大切である。
- ④ 問題解決の各過程において、自分の考えをもち、ノートに記述させるなど、表現する場面の設定が重要である。指導に当たっては、児童の発言を取り上げながら問題解決を展開したり、児童が自分の考えに確信がもてるようペアやグループでの協議を取り入れたり、ポイントを押さえた表現をさせたりすることが重要である。

【中学校 理科】

※ 平均正答率は全て公立学校の値

分析結果

【平均正答率 (%)】

| 全国 | 仙台市 | 全国との差 |
|----|-----|-------|
| 49 | 53 | +4 |

【学習指導要領の領域の平均正答率 (%)】

| 区分 | | 全国 | 仙台市 | 差 |
|------|----------------|------|------|------|
| 第一分野 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 41.9 | 44.9 | +3.0 |
| | 「粒子」を柱とする領域 | 50.9 | 54.2 | +3.3 |
| 第二分野 | 「生命」を柱とする領域 | 57.9 | 61.8 | +3.9 |
| | 「地球」を柱とする領域 | 44.3 | 47.7 | +3.4 |

【観点別・問題形式別 平均正答率 (%)】

| 分類 | 区分 | 全国 | 仙台市 | 差 |
|-------|---------------|------|------|------|
| 評価の観点 | 知識・技能 | 46.1 | 49.8 | +3.7 |
| | 思考・判断・表現 | 51.0 | 54.5 | +3.5 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | — | — | — |
| 問題形式 | 選択式 | 49.6 | 53.2 | +3.6 |
| | 短答式 | 24.8 | 24.4 | -0.4 |
| | 記述式 | 53.5 | 57.7 | +4.2 |
| 無解答率 | | 3.4 | 3.1 | -0.3 |

(成果：○, 課題：●, 問題番号：【 】)

- ① 【3】(2) 水素を燃料として使う仕組みの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する問題の正答率は67.5%で、全国を7.3ポイント上回っている。
- ② 【5】(2) 「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する問題の正答率は52.3%で、全国を7.3ポイント上回っている。
- ③ 【6】(1) 玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する問題の正答率は55.1%で、全国を7.1ポイント上回っている。
- ④ 【8】(2) 予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する問題の正答率は61.2%で、全国を6.1ポイント上回っている。
- ① 【3】(3) 水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとについて、適切なものを選択する問題の正答率は24.4%と低く、全国を0.4ポイント下回っている。
- ② 【5】(1) おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する問題の正答率は16.5%と低い。全国と比較しては1.2ポイント上回っている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 粒子の保存性に着目して化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈することはおおむねできている。指導に当たっては、水の電気分解などの化学変化を原子や分子のモデルで表し、化学変化に関係する原子の種類や数が変化しないことに気付くようにすることが重要である。
- ② 課題に正対した考察を行うためのグラフ作成の技能が、身に付いている。指導に当たっては、課題に立ち返り考察を行うために、どのようなグラフを作成するか検討させる場面の設定が考えられる。その際、グラフの横軸である「変化させる量」と縦軸である「変化した量」が何に当たるか考え、作成させることが重要である。
- ③ 玄武岩が火成岩であるという知識と、マグマが冷えて固まった火成岩には化石が含まれないことを関係付けて、化石の観察が可能であるとの判断はおおむねできている。
- ④ 観察、実験の操作や条件制御などの探究方法を検討し、課題を解決するまでの探究の過程を見通すことはおおむねできている。なお、実験計画の立案では予想と異なる結果が出る場面も想定していきたい。
- ① 水素を燃料として使うしくみの例を基に、化学変化を誘発する電気エネルギーへの着目に課題が見られた。指導に当たっては、水の電気分解や水素の燃焼などの化学変化が、電気、熱、光など「エネルギー」領域と関連していることに気付くよう指導することが重要である。
- ② 静止している物体に働く重力とつり合う力を矢印で表すことに課題が見られた。指導に当たっては、物体に力を働かせる実験を行い、一つの物体に二つの力が働いていることに気付くようにし、それらの力の大きさや向きを矢印で表して、つり合いの関係を説明する学習の充実が必要である。